

国分寺市地域福祉計画実施計画における平成28年度の評価についての推進協議会の意見

☆「市民、地域・団体でできること」の欄は、推進協議会において、委員が個人や団体を通して、自分たちでできることを意見として出していただいたものであり、委員の活動として、今後の目標設定の参考にしていただくものです。

1 実施計画（P6～12）第2章 具体的施策（重点施策・テーマ）についての意見

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること（☆）
	評価全体について		<ul style="list-style-type: none"> ●紙ベースで評価票を見ても、普段からどんな活動をしているか見ていないと評価ができない。 ●数値目標があるものはわかりやすいが、数値化されていないものはわかりにくい。 ●実績を信じてどう評価をするか、推進委員会もそれを評価しているので、推進協議会でもこれを正当に評価するしかない。さらに充実させてレベルアップを図ってほしい。 ●すべてを書き込むことは難しいとは思いますが、評価票の書式を再考し、より詳細を記載してほしい。 ●数値目標の設定がそぐわない事業もあるので、内容が達成されているかどうかを評価することでよい。 ●様々な部署がかかわり、多岐にわたる事業を実施している。縦割りではなく、庁内の連携がとれてきたのか、その効果があったのかを把握したい。 ●評価をしてほしいと言われても、内容について、疑義がある点を質問できず、市の担当者で議論ができないので、正しい評価ができない。 	

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (1)	(仮称)地域福祉推進協議会の設置	地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●協議会のあり方については問題なし。今後もより充実したものとして継続していくべき。 ●交流について、どういふ交流をするかということはあるが、異業種との交流自体は良いと思う。 ●いろいろな関係機関の人が出席しているので、このまま続けてもらえるとよい。 ●テーマが大きいので、評価がなじまない。 ●積み上げている途中ということは読み取れるので、このまま続けてもらいたい。 ●取組例がもう少し具体的に書いてあるとわかりやすいと思う。 ●内容の細かい部分がわからないので、評価するには意見が出しにくい。 ●実態がどうなっているのかがわかりづらい。具体的な成果や数字を積み上げる必要がある。 ●数値化しないと評価が難しい。 ●計画を立てて実行が伴わないともったいない。 ●協議会で話したことが、次の協議会につながっていくという実感があればよいと思う。もう少し整理をして、方向性を示してほしい。せっかく集まっているのに、これが地域づくりに結びついているのか。目的別に話し合ってもよいのではないか(高齢分野、子育て支援等)。その後、国分寺まつりなどで、市民の方に、自分たちの活動事例を紹介できたらよいと思う。 ●いろいろな人と知り合えたことは良かったが、それだけで終わっている。 ●分野別に話せた方が、建設的な話し合いができるのではないか。 ●地域ごとに分けると、地域課題がみえてきてよいのではないか。 ●長年一緒にやってきた体操グループの仲間同士で、お互いを支え合うことができ始めている。急に支え合うことはできない。地域福祉推進協議会での話し合いも10年もしたらものになるのではないか。 ●情報をどうやって市民の方に伝えていくかが課題だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●園だよりで、推進協議会の参加を紹介している。園長がこういうところに出ているということを知ってもらいきっかけになる(園長の独り言コーナー)。それをいろいろな人につなげていければと思っている。 ●具体的に話を聞かないと、せっかくの情報を知ることができない。こういった推進協議会のような場は必要。ここで知った情報を、ここにいない人に発信していくことが、行政や私たち委員の役割だと考える。 ●推進協議会に出席し、いろいろな方と交流することができ、情報共有ができたことは有意義である。横のつながりができた。交流によって得た情報を自身の活動の中で、保護者や子どもたちにつなげていきたい。

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (1)	(仮称)地域福祉推進協議会の設置	地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●推進協議会で知り合えて、情報共有、つながりが生まれている。 ●行政はいろいろな情報を持っているので、団体と個人の橋渡しの役割を期待する。 ●200もの事業があるが市民の大半はそれを知らない。もったいない。 ●知り合えることで生まれるつながりがある。 ●団体と行政のつながり、団体同士の横のつながりをつくるのが、まちづくりを進める上で大切だ。 ●男性がもっと参加したほうがよい。生活空間の違う人との交流に意味がある。 ●自分自身、福祉の個別化、特殊化にカルチャーショックを受けたので、地域でやっていくことが大切だと思った。会社だとある程度の枠組があるが、それがない。視点が広がる。 ●今、地域福祉推進協議会に参加している人から、どのように「新たな担い手」の育成につながるのかわからない。メンバーが決まっているので、どのように広げていくのか。 ●この会議がどこを目指しているのか、参加していてもよくわからない。具体的な事例があって、そこを掘り下げていくほうがわかりやすい。 ●異業種のマッチングをするのは自由意思となっている。 ●異業種の人と交流できたことはよいことだが、交流後の展開をどうするかが重要だと思う。この場でどういうことをしたいか、どういう意図があるかを、行政はもっと言ってもよいと思う。 ●他の団体への呼びかけとか、テーマを持ってきて話し合ってもよいと思う。情報交換、提供だけではなく、その先を見据えて欲しい。 ●参加しているが、自分達に何ができるのか、求められているのか、少しわからない。 ●取組シートを提出した以上、それをどうやって発展させていくのかをみんなで議論したい。 ●最初のコンタクトができたという点はプラスだが、その後は個別に動きなさいという状態で、何かをつくりあげるといった感じではない。異業種交流会のような状態だ。 ●この会議で困っていることを言ってほしい。こちらから困ってますかとは聞きづらい。できますだけでなく、困っていることの声を挙げて欲しい。声があったほうが、こちらとしても何を求められているかがわかりやすく、動きやすい。 	

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (1)	国分寺市職員地域参加促進事業	地域福祉課 政策経営課 職員課 協働コミュニティ課・公民館課・図書館課 市職員 (各課)	<ul style="list-style-type: none"> ●職員がどれだけ参加しているかは分からないが、地域イベント・まつり・フェスタ等が大規模に実施され、成功に終わっているので、職員が積極的に参加しているように感じる。 ●参加は目に見えるものではないので、どうやって市として評価しているのか。 ●職員はどのような思いで参加しているのか。感想を捉える方法はどうなっているのか。 ●土日参加は負担になっていないか。 ●職員が参加した感想など集約したものが見たい。 ●情報発信をいかにしているのか、その記載が欲しい。 ●今は情報提供のレベルを目標にしているので、これはクリアしている。これをどういかにするかはその先に出てくる。 ●市の仕事として実施するわけではないため、自由に参加するのがよい。強制は難しい。また、そのため評価になじまない。 ●先々に対しての難しさがある。(情報提供や共有の先に何かがあるかがイメージしづらい) ●参加することにより、市民がどういうことを求めているかを職員が知ることが目的だと思う。ただ参加しても意味があるのか。職員自身で自覚することが大切なので、自ら自覚してほしい。強制しないと参加しないというところに問題がある。やらされ感がある。 ●目的を持った計画にしてほしい。 ●評価になじまない。参加してどうであったかアンケートを取るとか、参加していない人に匿名でもよいので不参加の理由を聞いてもよいと考える。 ●情報提供の際に、単純に場所や日時だけでなく、どのような趣旨・目的の行事なのかも職員に知らせているのか。 ●参加が目標になっている。だから強制できず、評価になじまないということになる。そうではなく、市民が求めるものを理解しているのか。理解ということであれば、参加でなくても、情報の提供や共有でもよいのではないか。 	

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (1)	国分寺市職員地域参加促進事業	地域福祉課 政策経営課 職員課 協働コミュニティ課・公民館課・図書館課 市職員(各課)	<ul style="list-style-type: none"> ●「庁議」, 「イントラ掲示板」など専門用語が多すぎる。 ●課ごとの評価のうち, 「市職員」だけトーンが違う。違和感を感じる。 ●他市に住む職員が, 一個人として, 休日に国分寺市に来るのは難しい。勤務時間内に, 年に1回位, 職務免除のようなかたちならば参加しやすいのではないか。 ●イントラに, イベントが100%掲示されているのか。興味が無ければ見ないのではないか。 ●イベントでアクシデントがあったときに, 職員はどこまで責任があるのか。立ち位置が難しい。そこが整理されてすべての職員が理解していないと, 職員の参加も難しいのではないか。 ●行政にもいろいろな部署があり, 地域性のある部署と, そうでない部署がある。 ●あきる野市では, 市の職員が消防団の団員である。地域が見えていると災害が起きた時も強い。 ●社会福祉協議会から市にイベント情報を提供しているが, 締切などもある中で最新情報をどのタイミングで提供したらよいか, より具体的な調整が必要。 ●市の職員が参加する際は事前に知らせてほしい。市の職員が参加してもわからなければその先につながらない。 ●市職員の参加者数や回数を議論しても意味がない。数値目標の設定がそぐわない事業もある。 ●評価に馴染まないとのことだが, それはないと思う。 ●労務問題があるが, 前向きに取り組んでほしい。 ●行政組織としてやっていることと, 職員個人のプライベートを同列に評価できないので, 評価方法を考える必要がある。 ●とても良いことだと思うが, 職員参加が見えないのが残念だ。名札など下げて職員であることをもっとアピールしたほうがよい。その方が市民からも話しかけやすい。地域福祉を担う人材育成の面からもそのほうがよい。 ●若干強制があってもよい。それができない障害は何か。 ●「目標どおり進行している」としているが, 目標値がないのにどうしてそのような評価ができるのか。 ●1人1回以上参加などの目標値があった方がわかりやすい。 ●水 Rocket 事業では, 市の職員のボランティアが30人くらい参加しており, 事業に欠かせない。市の職員と民間とで立場上の隔りがある。同じ目線で汗を流し, いろいろな会話ができるようになるとよい。 ●地域が割り当てられているので, 情報が得られれば実態把握は可能なはず。 ●地域会議に参加することを要請してみてもどうか。地域ごとの職員を紹介してほしい。 	

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (2)	地域包括ケアの推進	地域福祉課 (福祉保健部・こども家庭部の各課)	<ul style="list-style-type: none"> ●目標にある「社会資源」とは何を指すのか。一つか二つ、具体的な例を挙げて欲しい。 ●評価にある「現状把握に努めた」とは、どういう活動を指すのか。それがわかると評価しやすい。 ●評価にある「ネットワークを築いた」とは、どことどのネットワークを構築したのか。一例を出してほしい。 ●各課で様々な事業を展開しているが、その垣根を越えた事業の実例が二つくらい紹介されていると、目標に対しての評価としてわかりやすい。 ●市内のネットワークづくりができていないか、この報告書からは読み取れない。そこが繋がらないと、重層的とは言えない。 ●何をもってネットワークを構築できたといえるのか。ただ会議をすればネットワークが構築できるというものではなく、つながりや実際の人の流れ(交流)が起こらないといけない。この資料ではそのあたりが分かりづらい。 ●「各分野で進めている」との評価だが、高齢や子どもなどで分けるよりも、分野ごとの連携に早めに進んでいけるとよい。複合的な問題も出てきているので。 ●市でもタテ割りではなく、福祉保健部で協議の場ができればよい。全体をみてくれる課を私たちは求めている。 ●全世代の支援ができるとよい。 ●高齢、障害、健康、子どもなど、どの分野でもネットワークづくりに力を入れているが、それぞれがつくってきたものをどこかでまとめるものがあるとよい。 ●市役所の福祉保健部内での連携がはかられているが、福祉保健部以外の部署(協働コミュニティ課など)とも連携が取れたり、顔の見える関係ができればよい。 ●いろいろな分野で「地域包括ケアシステム」という言葉が出るが、様々な分野の壁が取り払われるとよい。 ●もとまちの地域では、様々な交流の機会や介護予防の取組が行われており、地域ケアは非常によく推進されていると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育ての包括的な支援について、システム構築を行うのは行政だが、ソフト面をどのように生かすのかは自分たちの役割。自分たちで試してみて、行政に提案するための材料探しを現在行っている。 ●地域の方々が交流できる様々な行事やイベント等を実施する。 ●介護予防の推進のため、健康保持や筋力アップにつながる集いの場のような催しを実施する。

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
重点施策・テーマ (3)	福祉の総合的な相談窓口の体制整備	地域福祉課 (福祉保健部・こども家庭部の各課)	<ul style="list-style-type: none"> ●実際に第2庁舎のレイアウトを見ると、庁内で工夫して出発したことがわかる。このまま進めてもらいたい。 ●(仮称)地域相談窓口の試行実施について、推進委員会ではどのような検討がなされたのか。 ●障害の分野では相談窓口がいろいろあり、あちこちに行かなければならないので、たらい回しにならないようにしてほしい。 ●職員OBやOGの活用ができるのではないか。 ●デパートの総合受付のように、最初の窓口になってくれるところを、行政につくってほしい。 ●土日の対応ができるようなところがあるとよい。 ●総合相談窓口については、10年以上前から言われているがいまだにできていない。例えば地域包括支援センターの場所をお借りして、包括以外のスタッフをそこにあてて対応するなど方法が考えられるのではないか。 ●包括支援センターの場所を使うアイデアについては、何人のスタッフが必要か、専門スタッフが不在時には誰が対応するのかなど、包括職員としては考えてしまう。 	
重点施策・テーマ (4)	避難行動要支援者(災害時要援護者)への支援	地域福祉課 (防災安全課、高齢福祉課、障害福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな支援者を確保する取組が、どうなされているかの記述があるとよい。 ●「支援者」と記載があるが、誰を指すのか。記載がないのでわかりづらい。 ●登録者の安否確認は基本的には民生委員が行うが、一人で全部を確認できるわけではないので、個別に担当を決めて対応する必要があるのではないか。 ●専門的知識のある防災推進委員を支援者に活用したらどうか。 ●要支援者の情報が自治会・町内会に共有されているのか。 ●災害時要援護者に関わる情報は、高齢者に一番関わっている地域包括支援センターも持つべき。 ●現状では、災害時に、地域包括支援センターの役割は特にはないが、拠点として役割を担ってほしい。 ●自治会が地域に無いから、自宅で寝たきりの人をどうやって助けるのかと思う。 	

番号	事業名	担当課 (関連する課)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
(5)	生活困窮者への自立支援	生活福祉課 (各課)	<ul style="list-style-type: none"> ●自立相談支援事業(支援)では、委員会の評価が「目標以上に進行している」としているが、何が目標値なのか、どこが目標以上に進行しているのかが、わかりにくい。 ●学習支援事業では、数値目標を設定しているが、数値にとられる必要はない。数値目標を達成したからいいわけではない。このような事業は行政にしかできない事業であり、生活困窮にある世帯の子どもに学習支援を行うという内容が達成できればよい。30名に対して21名であったとしても評価できる。 ●学習支援事業は、利用者が生活困窮世帯の子どもだとわからないよう、周知に配慮が必要。 ●学習支援事業の実施が3か所に増えたことは評価する。 ●学習支援とともに地域の飲食店などを活用し、食事を提供するなど、地域で支えるシステムになるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習支援事業を実施しているところと子ども食堂との連携を図っており、食事を届けたりしている。 ●事業所では夜間空いている時間帯があり、学習支援事業の場所として利用していただけるのではないかと課題もあり難しいとのことだが、クリアできるとよい。

国分寺市地域福祉計画実施計画における平成28年度の評価についての推進協議会の意見

※事業名に対応するかたちで、担当課（関係課等）を記載しています。

2 実施計画（P13～40）第3章 各事業等の紹介についての意見

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること（☆）
	全体		<ul style="list-style-type: none"> ●よりよい施策・事業実施のため、事業の担当部署と個別計画を担当する部署との調整や連携が必要。 ●制度の狭間にいる方への支援も考えてほしい。 ●制度を目的別の一覧にすると見やすくわかりやすい。 ●同じような活動を公民館、市の事業、社会福祉協議会など様々な機関で実施しているが、まとめるなど整理することはできないか。 ●イベントは地域ごとにオリジナルの要素を取り入れた方がよい。 ●分野別に分けるのではなく、横のつながりを持って実施できるとさらに充実するのではないか。 ●細かくいろいろとやっているが、その結果、一つ一つのことについて、何が問題で、次に何をすると改善するのか、きちんと評価していく必要がある。 ●良い報告は少ない。何を改善する必要があるのか出すべき。 ●一市民としてどう思うか、人それぞれで何とも言いえない。評価が出れば、こちらに詳しく内容を教えてほしい。 ●こんなにたくさんの事業が展開されていることに驚いた。自分に関わる事業が見えるように、表のようなかたちで可視化してほしい。 ●行政はいろいろな事業をしているが、それぞれが自分の分野を超えて、声をかけあえたらよいと思う。 ●様々な事業を実施しており感心する一方で、似たような事業もあるため、事業をまとめた方がよい。 ●地域貢献したい企業はあると思うが、声がかからないとなかなか難しい。 ●たくさん事業があるが、それぞれ市民ができることを一つずつでも行えば地域福祉に貢献できる。 	<p>市民、地域・団体でできること（☆）</p>
		まちづくり推進課	<ul style="list-style-type: none"> ●空き家補助のモデル事業があればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅近くに空き家が2件あるが、猫が棲みつき、木が鬱蒼と茂っている。空き家はいろいろな地域で問題になっていると思うが、対策について個人でも考えてみたい。
		緑と建築課、環境対策課	<ul style="list-style-type: none"> ●公園の清掃をボランティアでやっているが、公園からごみを回収することができないとのことで、自宅に持ち帰り自宅から出してほしいと言われている。その場でごみを回収できるよう、清掃センターで対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者雇用で公園の清掃をしており、集めたごみを直接清掃センターに持ち込んでいる。回収のお手伝いができるのではないか。 ●所属する団体では、子どもが参加できる環境保全活動を行うことによって、環境への意識啓発を図っている（里山遊び活動、ホタル保全運動、カブト虫の採集体験。）。

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
1~7	地域福祉を担う 人材の育成・養成	地域福祉課、政策経営課、職員課、協働コミュニティ課、公民館課、図書館課、市職員、社会教育課、子育て相談室、高齢福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●組織や団体に属していない個人の市民の方々へ必要な情報を提供したり、収集したりすることが必要。そのためにはつなぐ役割の人が必要。 ●地域の中につなぐ役割の人が必要、その人材を育成することも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主活動は、ただ事業を利用するだけの方も多いが、利用するだけではなく、どうしたら会を存続させていけるのかや、他の人のことも考えていかないと、会の活動は存続していかない。活動を存続させていくためには、皆に少しずつ活動に関わっていただくことが必要なので、現役時代の経験等を活かしてもらおう(銀行で経理の仕事をやっていた方に、会計を担当してもらおう)など、常に新しく人材を掘り起していく。
7	認知症サポーター及びキャラバン・メイトの養成	高齢福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の高齢者を支えるために、認知症サポーターを市で養成するとあるが、今までそんなに実施していなかったということか。むさし国分寺農協では新入職員に対して講座を開催している。民間では結構実施していると思う。 	
8	ボランティア活動センターとの連携	各課	<ul style="list-style-type: none"> ●「ボランティアの力を借りる」とあるが、まずどのようにボランティアを集めるのか。力を借りることは事実としていいと思うが、どのようにしたらボランティアになってもらえるか、というのが大切であり、大変なところだ。 	
17	市民活動センター事業	協働コミュニティ課	<ul style="list-style-type: none"> ●活動する上では場・拠点が重要だ。空き家の活用など、場の確保、提供についての支援が欲しい。そのあたりの記載が欲しい。 ●本来、市民活動センターが、市民活動団体のニーズや困りごとを取りまとめていたが、案内所としての役割やマッチングのあたりがうまく機能していない。 	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
17~47	地域住民の交流促進	協働コミュニティ課、公民館課、高齢福祉課、子ども子育て事業課、障害福祉課、社会教育課、子育て相談室、子ども子育て事業課、スポーツ振興課(教育総務課、保育園、子ども家庭支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ●タテ割りで行うのではなく、地域にいろいろと行けるところがあって、高齢者や子どもなどいろいろな人が行けるとよい。 ●自治会が無いと、一緒に何かをするということができず、地域の交流ができない。自分が住む地域でも自治会長が辞めてしまい、後を継ぐ人がおらず、自治会が存続できなくなってしまった。 ●自治会が地域に無いが入りたい人は、たとえば戸倉自治会(市内最大の自治会)に入れてというのはあるかもしれない。お互いにリカバーできたらよい。市役所が音頭をとってくれたらよい。 ●日本語がわからないために、外国人が地域で孤立することを防ぎたい。 ●高齢者・障害者・外国人・子どもなどジャンル別ではなく、地域における共通の課題(例えば孤立を防ぐ)などを話し合うことができる場があるとよい。そのためには、旗振り役(コーディネーター役)が必要。 ●中学生や高校生を交えた話し合いの場があると、よいアイデアが出たりする。 ●様々な方々が情報交換できる場所が必要。 ●自治会は後継者の養成が大切。幼児が参加できるようなイベントをやれば、保護者や祖父母も来るので、そこで人材をリクルートできる。 ●普段からの御近所とのつながりを通して、どこのだれがどういった状況かわかることが大切。 ●会話ができる拠点が必要。地域の歴史(ここは地盤が緩いとか、以前は田んぼだったとか)を知ることで防災にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国際協会では、日本語地域連携連絡会を開催し、日本語ができない方をどう支援するか話し合いをしている。 ●地域であいさつすることや関心を持って声掛けすることが、あいさつする側・される側のお互いの安心感につながる。あいさつや声掛けを続けていきたい。 ●閉じこもりがちの方を外に出すことが難しい。チラシや声かけで地域に出ていただくよう働きかけている。 ●自分が所属している障害者団体では、商店街にお買い物にいったときにお店の方と交わす会話から、地域の情報(歴史や地盤が緩いなど防災の情報)などいろいろな情報を得ることができるので、商店会に加入している。字よりも会話のほうが頭に入る。これから会話を大切にしたい。 ●高齢になってくると、行政の支援を受けるほどではないが、例えば電球を交換するなど、生活の中のちょっとしたことでままならなくなってくるが増えてくる。そのようなちょっとしたお手伝いをし合える関係をつくるために、近所とのつながりを大切にしていこう。 ●現在、仕事のほか、ボランティア活動もしており、手一杯なので、現状維持で引き続き活動していきたい。 ●仕事をしていると、平日の参加は難しい、土日であれば様々な行事に積極的に参加したい。
18	地域会議事業	公民館課		<ul style="list-style-type: none"> ●自分が所属する団体では、地域会議を開催している。2か月ごとに集まり、情報交換している。また、ファミリー運動会や防災シンポジウムを開催している。
19	地域生きがい交流事業	高齢福祉課		<ul style="list-style-type: none"> ●自分が所属する団体では、生きがい交流事業の開催について、情報紙の発行やホームページ掲載などを通じて、広く情報提供を行っている。
20	児童館・公民館における異世代交流事業	公民館課、子ども子育て事業課	<ul style="list-style-type: none"> ●児童館では、公民館、図書館、子ども家庭支援センターと連携し、お祭りや行事、情報提供などを行っている。さらに連携を深めていきたい。 	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
21	地域交流、地域間交流のための交流会の実施	協働コミュニティ課	<ul style="list-style-type: none"> ●協働コミュニティ課が、この事業の内容を具体的に理解しているのかなと思う。各団体をまず観察し、要望等を吸い上げる方向性でやっていただきたいと思う。老人会の在り方についても疑問。元気な老人が、元気の無い老人をみるのが本来。双方含めた存在であるべき。 ●元気の無い老人が、包括支援センターに来る。家にいるのに、地域の方とのつながりが寸断されてしまっている。寸断されない環境があるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が暮らす地域では、男性の飲み会はあったが、女性が集まれる会が無かったので、女性同士の懇親を図るため、女子会でランチを楽しんでいる。
32	公民館、地域センター等を活用した「居場所」づくり事業	公民館課 (協働コミュニティ課)	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児から高齢者まで、全世代が集える居場所づくりを進めてほしい。(例えば、高齢者が子どもに昔遊びや勉強を教えたり、認知症カフェのような空間に子どもが混じったり。)。タテ割りではなく、みんなが繋がれるとよい。 ●いろいろな事業があっても、高齢者にとってはそこまでわざわざ行くことが大変なので、コンビニの数くらい地域に集える場・たまり場があるとよい。コンビニに併設できたらよいのではないか。 ●幼児と高齢者が歩けるのは500mくらいなので、500m以内に地域のコアとなるような施設があるとよい。 ●気軽に行ける場所があれば、行って「自分にできることはないかな?」と自然に思えると思う。 	
33	保育所地域支援事業	子ども子育て事業課		<ul style="list-style-type: none"> ●地域の未就園児と保護者に、保育園の中を知ってもらう活動を月2回行っている。お金を徴収せずに、地域貢献としてやっている。先週も園児と未就園児を対象に、マスのつかみ取り等、体験イベントを行った。子どもにとってもよい経験になっている。インターネットでも広報して情報発信している。 ●助産師会の方とつながりができたことにより、保育園で企画・場所の提供をして、妊娠から出産後のお母さん方を対象に助産師会の方を講師に招き、講演や相談などの企画を実施してみたい。
38	保育園給食地域交流会	子ども子育て事業課 (保育園)	<ul style="list-style-type: none"> ●食育にもなるので、保育園の給食にできるだけ地場産のものをつかってほしい。畑を残すためには、地域住民の理解が必要。鮮度がよい野菜なら野菜嫌いの子も食べられる。農協だけでなく、地元の農家にもやってほしい。実際声がかかればやってもよいという農家もいるが、マッチングがなく声がかからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所で先日、地域の方に向けて一日限定の食堂をやったが、食材について農協に声がけするという発想がなく、自分たちですべて行った。地域の人に参加してもらう、横のつながりを生かすということを考えてもよいと思った。 ●自分が所属している保育園では、保育園の栄養士が、給食や離乳食のつくり方を教えることができる。

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
42	子ども家庭支援センターまつり	子育て相談室 (子ども家庭支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども家庭支援センターでは、児童館、公民館、図書館と連携して、お祭りや行事、情報提供などを行っている。さらに連携を深めていきたい。 ●子どもの居場所として、子どもたち自身が児童館と子ども家庭支援センターのスペースを上手に活用している。 	
48, 49	民生委員・児童委員の活動の充実	地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろとやっていただいているありがたい存在だが、民生委員にかかる負担が大きいと感じている。もう少し負担を軽減しながら、元気に働けるとよいと思う。 ●民生委員を引き受ける方がなかなかいない。 ●新しい民生委員も、不安を抱えながらもがんばっている。民生委員OBなどで、現役の民生委員のサポーターになれたらよい。 ●現役の民生委員を、いかに地域で支えていくか。 ●児童・生徒の登下校の見守り活動をしていただいております、感謝している。また、学校や地域の行事にも参加していただき、子どもたちにも顔の見える関係づくりができています。 ●民生委員は地域へのアピールをして顔を知ってもらわなければならない。例えば、公民館を活用して各地域で会議などを実施し、民生委員の顔と活動を知ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員のなり手がいないので、地域で推薦できる方がいらしたら教えてほしい。
51, 53	市民活動団体等の支援 障害当事者団体等の育成	協働コミュニティ課、障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●聴覚障害を持つ人・手話を勉強している人・市民にも呼びかけて、毎年12月にクリスマス交流会を行っている。聴覚障害者への理解と啓発を目的に行っているが、そのような具体的な活動についても実施計画のなかで紹介してもらいたい。 	
59	市民の活動の場の提供	協働コミュニティ課、文化と人権課	<ul style="list-style-type: none"> ●居場所が足りないと思っているのは、高齢者も、子育て世代も同じだと思った。助産師会でも、場所がないので、何かやろうと思ったら場所を借りないといけない。子育て中に、地域の方とつながることが楽しいと感じてもらえれば、その方が高齢者になってもいきいきと地域とのつながりの中で生活できるのではないだろうか。 ●国分寺は施設に恵まれている。活動をする上で、場所(集会室)があることはとても有意義である。 ●社協が、ポップコーンメーカーや、かき氷器を貸してくれるのでありがたい。 ●いまの市の財政では公助ばかりお願いしてもできない。自分たちでできる場所は、自助でやらないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高木町自治会は集会所が無いので、社務所を有料で借りている。行政に対して、財源の手当てについて言うのも難しいと思うので、自分たちで財源を稼ぐために集団リサイクルを行っている。行政や社協と連携し、お互いにできることをやればよいと思う。 ●本町4丁目では、集団リサイクルで得た資金でリヤカーを購入した。 ●自分が所属する団体では、登録した団体に向けて、希望があれば会議室の貸し出しを行っている。

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
61, 67	保健福祉意識の高揚 福祉に関する講座等事業	地域福祉課, 公民館課	●外国人は弱者ではなく、言葉・文化が違うだけ。そのことをお互い理解し合うことが大事。	
69	生涯学習の推進	社会教育課	●講座を受講させるだけでなく、その次に行動に移せる仕組みがあるとよい。聞くだけではなく、自分が責任を持って動けるものがあると、やりがい・生きがいにつながる。 ●支援が必要な人と、支援をしたい人とをつなげる役割が必要。	●ボランティア活動センターでは、講座を聞いてすぐボランティアができるようにつなげることをしている。
77	市報・ホームページによる福祉情報の提供	市政戦略室	●外国人は日本語がわからないと、情報を得ることができない。 ●ホームページを見られない方もいるので、そのほかの情報提供も必要。	
78	わかりやすい国民健康保険事業の情報提供	保険課	●「高齢者宛てのお知らせは…」となっているが、だれもがわかりやすい情報提供をしてほしい。	
77~98	情報の提供・共有	市政戦略室, 保険課, 高齢福祉課, 健康推進課, 障害福祉課, 議会事務局, 選挙管理委員会事務局, 公民館課, スポーツ振興課, 子ども若者計画課, 子ども家庭部, 子ども子育て事業課, 協働コミュニティ課, 各課	●児童館で様々な事業のPRをしているが、知ることができる人と興味の無い人がいる。行政がやっていることも、いわゆる情報難民といわれる方に、どのように情報を届けるかが難しい。これだけやっています、と言うよりも、どのように伝えていくのが大切。アナログしか受け取れない方にどのように伝えていくのか。 ●公民館, 学童・児童館, 地域包括支援センターなど地域で連携ができていの中で、様々な世代に向けて情報提供・共有ができる。	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
89	体育施設等の利用促進	スポーツ振興課	●「障害のある人が…」となっているが、障害者の方はインターネットによる予約の方が利用しやすいのか。インターネットを使えない方もいるのではないか。	
92	子育てガイド「ホッとおれんじこくぶんじ」の作成と普及	子ども若者計画課	●ガイドブックの作成は、時間も手間もかかり、常に最新情報を載せることは難しい。そのため、駅などを利用し情報を発信したらどうか。 ●新しく市民になった方や初めて出産する方など、妊婦や乳幼児を抱えた方が対象で、どこに遊びに行ったらよいか、相談に行ったらよいかなど、子育てに関する情報を掲載しているものであり、作成・配布することは意義がある。	
96	市職員による出前講座	各課		●自分が所属する団体では、防災シンポジウムや、おたっしゅ健診を実施している。
97. 98	健康づくりに関する情報発信 健康・食育に関する団体の情報集約・発信	健康推進課、協働コミュニティ課、各課	●認知症予防には有酸素運動が有効とのデータがあるので、認知症を予防しましょうというところと、体操をしましょうというところが合体するとよい。健康推進課に運動を専門とする職員がいないのが、国分寺市が弱いところだと思う。自分が所属している団体では体操リーダーを養成していて、それをいろいろな課とつないでいけたらいいと思っているが、特定の団体と行政がつながることが難しいため、うまくクロスできていない。 ●認知症の方が地域で暮らすことは大変なことだ。周りの支援が必要。普段の食生活、ごみ出しすら難しい。具体的な施策が必要である。	●自分が所属する団体では、情報紙の発行やホームページ等を通じて、高齢者の健康づくりに関する情報を提供している。
105	障害者の相談支援	障害福祉課	●地域包括ケアの構築の一つとして、障害の分野でも「地域」の視点を取り入れていく必要がある。	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
128	基幹型保育所同士の相互連携事業	子ども若者計画課		●エリアの基幹(中心)となる3つの園が勉強会等を展開している(こくぶんじ保育園, ひかり保育園, 恋ヶ窪保育園。)
159~166	福祉のまちづくり	まちづくり計画課, まちづくり推進課, 建築指導課, 道路管理課, まちづくり推進課, 公民館課, 契約管財課, 子ども若者計画課, 子育て相談室(各課)	●市民が来庁する公共施設として, 市役所のバリアフリーを積極的に取り組むべき。	
163	障害者用駐車スペースの確保	公民館課	●恋ヶ窪公民館は, 駐車スペースの確保だけでは意味がない。エレベーターなどのバリアフリーが必要。	
170~174	市内交通の利便性の向上	交通対策課, 高齢福祉課, 地域福祉課, 障害福祉課	●勤務先が西町。昨年から認知症カフェを開設しているが, ぶんバスしか運行しておらず, なかなか遠くから来てもらうのが難しい状況。ぶんバスが循環ルートだけでなく, 市内一周できれば, いろいろなサービスにつながる事ができてよいのではないか。 ●なみき包括の担当エリアでも, 路線バスが通っていないところがある。市役所に行くのも大変。 ●運行ルートがつながっていれば, バスとバスで乗り継いで行ける。 ●小平市の地域バスは1ルートで, 市内の公共機関をぐるっとまわるルートになっている。時間はかかるが, 足が不自由な身にとっては便利である。	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
175~ 184	防災・減災対策 の推進	地域福祉課, 防 災安全課, 社会 福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ●二次避難所が障害別の避難所だと安心できる。 ●避難場所について、福祉的な避難場所もあり、地域の方はどこに避難したらよいかわからないので、しっかり広報をしてほしい。 ●外国人は言葉がわからないと、防災訓練があることも知らない人がいる。回覧板が回っても日本語が読めないとわからない。 ●災害時における外国人に対する事業が載っていないので、検討した方がよい。また、国際協会と連携するほか、語学ボランティアと連携する方策があるとよい。 ●防災は、地域のつながりを密にすることが大事。無駄が生きる。 ●ポケットパークに集会所をつくっておくと、災害時にも役立つ。 ●特養が二次避難所となっているが、情報もないし、そのための訓練もしていないのが現状。 ●社会福祉法人は福祉的な避難場所として市と協定を結んでいるが、災害時の対応について市ともっと協議をした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災のための支援マニュアルの周知活動を行う。 ●自分が所属する団体で支援マニュアルの周知活動を行った。 ●自分が所属する団体で、安否確認システムの確立に向けてトライアルを実施した。 ●自分が所属する団体では、防災について、行政では取り上げていないテーマについて講演会を行い、市民の防災意識の向上に役立てる計画がある。 ●自分が所属する団体で、防災の意識啓発のため、防災シンポジウムを実施した。
180	市民防災まちづ くり学校事業	防災安全課	<ul style="list-style-type: none"> ●11月に市民防災まちづくり学校において、聴覚障害者が他の市民と一緒に避難訓練を実施している。聴覚障害者は、災害時に食料配布の放送が聞こえない場面等で困ることを知ってもらうことを目的としている。 	
185~ 191	地域での見守り 体制の充実	高齢福祉課, 環 境対策課, 防災 安全課	<ul style="list-style-type: none"> ●2025年問題が控えているので、安否確認のシステム化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が住んでできる地域では、配偶者が亡くなり、一人暮らしになる高齢者が増えていて、買い物などどうやって暮らしているか心配に思っている。このように施設に入所せず、自宅で一人暮らしをしている高齢者の見守り(話し相手、買い物の手伝い、自分は将棋ができるので将棋の相手など)のボランティアをこれからはやりたい。 ●社会福祉協議会や地域包括支援センターで見守り事業を実施しているので、個人で活動をしている方とも連携できるとさらに横のつながりができてよい。
187	見守り訪問事業 (旧: 支え合い ネットワーク事 業)	高齢福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●対象者はどの範囲か等詳しい記載が必要。 ●一般の方が見守りをするための方法を記載した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会に入っている方は自治会で見守りができるが、入っていない方は見守りが難しい面がある。何かあれば、民生委員につないでほしい。 ●地域での見守り、支え合いのため、老人クラブの友愛活動(会員同士の見守り活動)を引き続き実施する。
188	見守り協定事業	高齢福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞配達店や牛乳配達事業者などと協定を結んでいるが、実際に新聞を配達したりする現場の方で、事業について理解をしている人が少なく、担当でない包括に連絡がいたりしている。協定を結んでいても、実際に新聞や牛乳を配っている人がそれを理解していないと、意味がない。 ●業者だけでなく、地域の人も気づいていないと、有機的に動けない。 	

番号	事業名	担当課 (関係課等)	意見	市民、地域・団体でできること(☆)
192	消費者被害の防 止	高齢福祉課		<ul style="list-style-type: none"> ●一人暮らしの高齢者が被害に遭うことが多いため、一人暮らしの高齢者をお誘いして一緒にパトロール活動を行うことで、健康づくり及び防犯に役立っている。